

# 一般教育等の授業実態に関する アンケート調査

香川大学一般教育部大学教育研究室  
稲田道彦

## 1. はじめに

一般教育の改善は多方面の分野でなされなければならないこと、そして改善のためにおこない得る幾つもの方策があることを認識した上で、まず最初に私達の職務の中心である授業を狙上にあげ、授業改善を第一の目標にしたいと考えた。そのため教員が日頃の授業をおこないながら気づいている問題点や、こうしたら良くなるのではないだろうかという改善のアイデアが聞くことができれば、そこから問題解決の糸口が始まるのではないだろうかと考えた。この報告は現行の一般教育の授業に対して教員が持っている意識を知ってほしいという意図と、将来の一般教育の改革をすすめるためにおこるであろう議論へのきっかけを提供したいという意図で行われるものである。アンケートを以下のような様式で実施した。アンケートの配布先は1990年度後期に香川大学において一般教育の授業を担当した全教員である。これらの教員全員に質問用紙を配布し、回答用紙を回収した。回収率はQ1のとおり、非常勤講師54.0%、香川大学他学部教員0%、教育学部専門科目担当教員43.9%、教育学部一般教育担当教員53.0%であった。

この報告は2章でアンケートの質問とそれへの回答の集計結果をあげた。アンケートでおこなった質問をそのままの形で提示し、その下に集計結果を表やグラフの形で示した。但しQ7からQ10はまとめて質問に答えた。続く3章ではそのアンケートの集計の結果に対して若干のコメントをするという形をとっている。アンケートには別の解釈の仕方があると思われる。そういう異論をだしてもらいながら、議論を重ねる形で、この問題が発展していくことを報告者は一番望んでいる。

## 2. アンケート集計の結果

Q 1 次からお選びください。

- 1 非常勤講師である。
- 2 香川大学の法学部，経済学部，農学部，商業短期大学部の教員である。
- 3 香川大学教育学部教官で一般教育部教官会議のメンバーでない。
- 4 香川大学一般教育部教官会議のメンバーである。

	アンケート配布数	回答者数	回答率
1 非常勤講師	50	27	54.0%
2 他学部教員	3	0	0.0%
3 教育・専門	41	18	43.9%
4 一般教育	45	24	53.3%
合計	139	69	49.6%

以下のアンケート結果では回答のなかった他学部教員を省き，1 非常勤講師，2 教育・専門，3 一般教育の順でそれぞれを短縮した形で記すことにする。

Q 2 あなたは一般教育の授業を担当するようになって，通算何年になりますか。

	0-5 年	6-10 年	11-15 年	16-20 年	21-25 年	26-30 年	30年以上
非常勤講師	14	7	4	1	1	0	0
教育・専門	6	2	1	4	3	1	1
一般教育	4	4	5	5	5	1	0
合計	24	13	10	10	9	2	1

Q 3 あなたが学生時代にうけた一般教育（教養課程）の授業に対して，どんな印象を持っていますか。一番印象に残っている授業名を回答覧にお書きください。また次の空欄にその授業のどんな点が印象に残っているかご自由にお書きください。

回答のあったもの全てを科目名とその印象についての記述を次に記す。

非常勤講師

「東洋史」先生が毎回熱弁をふるわれ，学生に対して大変厳格でレポートの回

数も多かったが、疑問点には詳しく答えていただいた。

「人間学」グループ・ワーク等毎回毎回趣向を凝らした授業で知らず知らずのうちに人間生活全般に関して、問題意識を持つようになった。

「英語講読」担当教官が実力本意で評価をしていたこと。（出席で学生をしばりつけなかった点）

「キリスト教哲学」学生時代はなんと退屈で分からない授業と思っていたのですが、大学4年一社会に出て、それがいろいろ形で心象的によみがえってきて、判断の手だてに役だってきました。

「哲学」学問の内容というより教えてくださる先生の影響が大きい。

「考古学」出土品を前にして学問研究の進め方とその限界、そして未知なるものへの畏敬の念が授業を通して終始あったことが印象に残っている。

「フランス語」授業を担当された先生（具体的には寺田透氏）の態度風貌についての個人的印象。

「ドイツ語」ドイツ文化の香りが忘れられない。

「西洋音楽史概説」（一部略）故辻莊一氏の授業、氏はプロテスタント教会音楽研究の権威。バッハの音楽の所で強い感銘を受けた。

「英語」興味があった。

「語学のドイツ語・英語」激しかった点。

「体育実技」ゴルフ、ボーリングなどとてもユニークな科目を履修した。

「精神異常・死・創作」著名な日本の作家（森、夏目、三島等）をトータルのに作品から分析し気質分類していくもの。レポートに「脳死」について問うものもあり、直接専門とは関係なかったが引き込まれる授業だった。

「政治学」その先生が政治学が好きでたまらないといった様子で講義されたのが印象に残っています。

「教育学・美学・日本文学」非常に多岐にわたる学問的刺激を受け、それに触発され、思うままに読書したり、学習の場をさらに求めたりした。どの講義も未知の学問体系への扉を開けてくれ、わずかな出席者の中で受けた日本文学の講義はその格調の高さと内容と奥行きの高さに感動

して終わったのを今も覚えている。

「文化人類学」生き生きとした講義のしかた。

「生物」内容よりも教員の情熱だけが残っている。

「哲学概論・芸術・倫理学特別講義」それぞれの分野で当代一流と云われる方々の授業や経験談（世界的名選手）による教養への入門は感激させられた。

「 」私の大学時代は一般教育が確立されていませんでした。高校時代は読書から得たものが最も大きかったと存じます。一つあげるとすれば（大学卒業後ですが）チボー一家の人々です。授業の間にも学生に話しています。

#### 教育・専門

「演習形式の授業」少人数で入門的な専門書（？）を輪読したが、その後の方向性を与えるものとなったように思える。

「漢文」高校までの漢文は文法重視で苦手であったが、手書きプリントを多数配布し、その内容まで深く踏み込んで語るように伝える教授法にきわめて好感をもった。

「行動生理学，社会調査法，英米文学特別演習」いわゆる概論的（浅く広く）講義は全く印象に残っていない。むしろ自分の専門領域にかかわる内容について専門的に探求した科目に興味を覚え役だった。3番目の科目名は専門科目のように見えるかもしれないが、一般である。

「物理学」先生が勝手に黒板に数式を書いて授業をし、試験の時は自由で、そのときに質問を受け付け、それについてまた解答するという形で、学問・授業・試験というものに対して根底的にイメージを変えさせられた。

「科学論」マスプロ授業でなく少人数の授業であった。ガリレオその他の科学者達の一般的位置づけを大きく転換させてくれ、新しい視野を開拓してくれた。大人数の授業にあのときめきはなかった。

「法学演習」「権利のための闘争」，欧米の集会条例等興味深いテーマを扱った法学教官による一般教育向けの演習，レポートが多かったが充実し

ていた。

「物理学」さっぱり分からなかったがさすが大学だと思った。

「語学」語学以外は余り熱心に授業に出ませんでした。

「哲学」受講者数の少ない授業であったが、実に決定的なその後の人生の生き方を変えた真理を教えられたので、大変によく覚えている。

「①世界史、②英語、③ドイツ語」①ナチスが政権を取るプロセスを具体的に解明。②英語でシュローホフの静かなるドンをよんだ。③内容は理解できなかったが哲学的な輪読だった。

「外国語」外国語そのものがおもしろい。

「河盛好蔵のフランス語」単なる語学でなく文学や文化の話が多かった。

「演劇」演劇や映画の理論が平易に解説され、興味深く有益であった。

「特に印象に残る授業はなかった」自分が受け身であったことも原因であるが、香川大学卒業生として感じることは、学生と教員との人格的なそして意志の疎通がなかった。教官は学生のニーズにも関心を持つべきだと思う。これは一般専門両方に通じることだが。

「人文地理学」大学の時は早く専門に入りたいという気持ちが強く特に印象に残るものはない。強いてあげればこれであり、今でもステレオ図を見るのに役立っている。

「歴史」高校までの暗記主体と違い当時の社会情勢等を分析し考察することがおもしろかった。

## 一般教育

「人文地理学」学ぼうとする者には多くの可能性を与えてくれたが、意欲のない者には出席をとったり、安易に単位が与えられなかった。とにかく授業がおもしろかった。一般という枠を余り感じなかった。

「教育学」入学生の心理をふまえた授業であった。

「哲学」講堂一杯になっており、認識について、生きることの意味、自己について深い洞察と感動を受けた。

「語学」独仏語の語形変化が非常にめずらしくわずらわしく、又新しい語学という点で興味もてた。

「英語」教官が研究者である点。

「ロシア革命史（政治学）」素材に一貫性あり、これを幅広い観点から語られた。

「東洋史」中国における様々な結社を取りあげた授業であったが、結社というミクロなテーマを掘り下げることによって歴史のマクロな側面を浮き彫りにさせていた。

「天文学」自然現象を論理的に説明できるということを実際に則して示された。現象を貫く論理の存在に気づかされた。

「外国語科目（英語ドイツ語）」読むこと書くことを中心に実利的教育であった。

「日本国憲法」違憲か合憲かの判断論拠を構成させる教育目標に新鮮さを感じた。

「政治学」教師がいわゆるOld leftであったが、その理論と彼の生き方がぴったりあっており、内容の難しさはあったが、その授業内容の誠実さはひしひしと伝わってきた。「うそ」は言っていないという強い印象があった。

「自然科学史、ギリシャ哲学」講義を聞いておもしろいという気持ちがあった。「物理学（文化用）、心理学、論理学、法学、日本外交史、ドイツ語、フランス語、ラテン語」高校ではなかった学問が全て興味をひいた。それらはどれもこれも一番印象的である。物質観の変遷、三段論法、法学の自由研究で映画館等で他人の煙草の煙を吸わなくてはいけない不合理を論述したことがなつかしい。—今は嫌煙権とか言って利巧そうなことになったが。

「哲学」高等学校の授業でほとんどやらなかった（高校での授業科目になかった）ので、全てが新鮮に感じた。

「社会思想史」世の中知らないことが沢山あるんだなと思った。

「生物学」生命の偉大さの認識

「①数学、②社会学」①おもしろくない、つまらない、意味がない、②新鮮だった。

- 「 専門科目が1年から半分もあったので一般に力が入らなかった。メニューも豊かとは云えなかった。
- 「 一般教育という区分のものはなかった。
- 「 ほとんど印象に残っていない。
- 「 全く残っていない

## 問2 一般教育の理念について

Q 4 いわゆる「一般教育の理念」についてお聞きします。

1. よく理解し、承知していると思う。
2. よくわかったとは言えないが大体のアウトラインは知っていると言える。
3. ほとんど承知していない。
4. その他( )

	1	2	3	4	計
①非常勤講師	7	19	1	0	27
②教育・専門	4	11	1	2	18
③一般教育	6	17	0	1	24
合計	17	47	2	3	69

4 その他、の意見(①非常勤講師, ②教育・専門, ③教育・一般, 以下の問のその他の回答において同じ)

- ① 自分の理念は持っており、よく分かっているつもり。
- ② 一般教育の理念とよく言われるが、これが現状にあうのか、理念が先行していいのか疑問である。
- ③ 一般教育の理念自体がそう簡単ではない。c.f. 飯島レポート参照  
「…それとかわるべき一般教育の哲学が求められている。しかしそれはまだ発見されていない。……」

Q 5 一般教育の理念を授業に生かすことはうまくいっていますか。

1. うまくいっている。

2. うまくいっていない。  
3. わからない。

	1	2	3	その他	計
①非常勤講師	10	7	10	0	27
②教育・専門	2	6	10	0	18
③一般教育	7	8	8	1	24
合計	19	21	28	1	69

その他の意見

- ③ たいていの科目で私は一般・専門の差を考えない。そのまま専門をぶつけば良い。

Q 6 あなたのお考えになる「一般教育の理念」によると、一般教育の授業を行う意義は次のどれに一番近いですか、もしあれば二つまでお答えください。

1. 専門的研究教育体制にとらわれることなく、学問や人間社会に共通の基本的な認識判断を追求する。
2. 専門教育の準備あるいは基礎を確実にする。
3. 学問や人間社会の課題に対する思考法と判断力を養う。
4. 人生や社会ないし文化に対する理解を深め、知見を広くする。
5. 教員と学生、学生相互間の議論に基づき新しい知識を形成するという教養のあり方を学ぶ。
6. 法令、学則に定める卒業資格を充足させる。
7. その他( )

	1	2	3	4	5	6	7
①非常勤講師	15	7	13	8	0	1	0
②教育・専門	11	3	5	7	2	0	2
③一般教育	17	4	12	9	2	0	0
合計	43	14	30	24	4	1	2

7. その他, の意見

②あえて言えば1であるが, 「一般的」教養, 「共通の基本的」認識という概念の意義が分かりません。

②一つは一般人としての最低限必要な知識をもたせる。もう一つは専門教育の基礎の二面があると思う。

問3 次に授業に対してお聞きします。Q7からQ10の質問には, 担当されている授業ごとに欄を代えてお答えください。同じ内容の授業を繰り返している場合はどちらか一方のみについて答えてください。

Q7 授業は次の系列の中でどれに属しますか。

1 人文, 2 社会, 3 自然, 4 外国語(英語), 5 初修外国語, 6 保健体育

Q8 授業の形態は次のどれですか。

1 講義, 2 演習, 3 実験, 4 体育実技, 5 総合科目, 6 高学年一般科目

Q9 クラスの人数は次のどれですか。

1 50人以下, 2 50 - 100人, 3 100 - 150人, 4 150 - 200人, 6 300人以上

Q10 学生の学業達成割合。今年度後期の各授業で大体何%ぐらいの学生が合格になりますか。合格率を概数でお答えください。

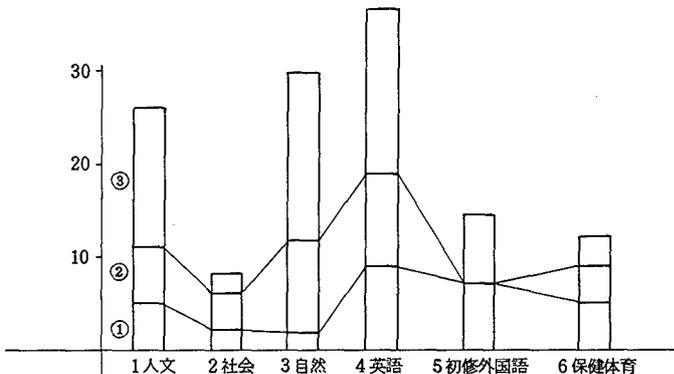


図1. (Q7) 分野別授業数 (回答のあった授業数)  
 (①非常勤講師, ②教育専門, ③一般教育)

300人以上						
200 - 300	9					
150 - 200	8				4	
100 - 150	12	1			6	1
50 - 100	14	40	4	1	1	
50人以下	3	10	3	9	1	2
Q 8 / Q 9	1 講義	2 演習	3 実験	4 体育 実技	5 総合 科目	6 高学年 一般

図2. ( Q 8 ・ Q 9 ) クラスの人数と授業の形態 ( 数字は回答者数 )

10%以下						
11-20%						
21-30%						
31-40%						
41-50%		1	1			
51-60%			2		2	
61-70%	1	9	5	2	3	
71-80%	3	23	7	4	1	
81-90%	7	22	4	3	2	
91-100%	14	3	2		1	
Q 10 / Q 9	50人以下	50-100	100-150	150-200	200-300	300人以上

図3. ( Q 9 ・ Q ) クラスの人数と単位合格率の関係 ( 数字は回答数 )

Q11 一般教育の授業ということで、専門教育との対比において特に心がけていることがありますか。それはどのような事柄ですか次から2つまでお答えください。

1. テーマや内容の選択の仕方を工夫する。
2. 授業の展開方法を工夫している。
3. 学生の興味関心を引き出す方法について考えている。
4. 授業の前提となる学生の知識の状況の把握と補充につとめている。

5. 特に心がけていない

6. その他( )

	1	2	3	4	5	6
①非常勤講師	14	9	10	2	5	0
②教育・専門	9	4	8	3	4	1
③一般教育	9	10	14	7	2	0
合計	32	23	32	12	11	1

6. その他, の意見

② 専門教育と形態が全く異なる

② 5のうちに, レベルを下げるとの注記。

Q12 これらの授業はやり易いですかどうですか。

1. やり易い。

2. やりにくい。

3. 両方の要素を含む。

4. その他( )

	1	2	3	4
①非常勤講師	9	6	11	0
②教育・専門	1	5	12	0
③一般教育	4	4	16	1
合計	14	15	39	1

4. その他, の意見

③別に難易を感じないし, 考えない。

Q13 やり易いと感じるのはどういう点ですか。近いものをお答えください。

1. 学生が積極的に授業に参加し協力的である。

2. 授業の教育目的について教員と学生の間に相互の理解ができている。

3. 自分にとって, 新鮮なテーマの授業で新しい発見があり, 充実している。

4. 自分がよく知っていることを授業で扱っており、困難に感じることは何もない。

5. その他( )

	1	2	3	4	5	無回答
①非常勤講師	7	2	7	4	0	7
②教育・専門	2	2	2	4	1	7
③一般教育	3	3	7	4	3	4
合計	12	7	14	12	4	18

5. その他, の意見

② 専門の基礎教育ではないので内容を自由に選べる。

② 2の回答の注記。感想質問を書いてもらっているので進行につれて相互の了解が少しずつできてくる。

③ 必須科目だからと思う。

③ 専門的に突っ込んだ内容ではないので忙しくて準備ができない場合でもそれなりにこなせる。

Q14 やりにくいと感じる原因はどこにあるとお考えですか。

1. 原因は学生にある。

2. 原因は教員(自分)の側にある。

3. 学生・教員の両方に原因がある。

4. カリキュラムなど香川大学の一般教育制度に問題がある。

5. その他( )

	1	2	3	4	5
①非常勤講師	3	1	10	2	2
②教育・専門	3	3	7	6	0
③一般教育	6	1	10	1	2
合計	12	5	27	9	4

5. その他, の意見

① 学生が多すぎる。

- ① 1クラスの学生が多すぎる
- ③ クラスの人数が多すぎる。
- ③ 総合-オーガナイズ。演習-専門科目でない。
- ③ 3の回答の注記。単位目的のみのものがある。

Q15 やりにくいことの原因が教員の側にある、または両方と答えた場合、その理由がもしあれば次から2つまでお答えください。

1. 授業で教授しなければならないテーマが自分の興味・関心とかけはなれている。
2. 自分の授業の技術が未熟なために、講義内容をうまく授業に展開できない。
3. 授業間の関連性など一般教育全体のカリキュラムに起因する。
4. 一般教育の理念を実現する具体的方法を見いだせていない。
5. 教室の設備の不備。
6. 忙しくて授業の準備が十分できない。
7. その他( )

	1	2	3	4	5	6	7
①非常勤講師	1	2	2	5	1	1	5
②教育・専門	1	5	1	1	2	4	3
③一般教育	0	6	6	4	3	3	2
合計	2	13	9	10	6	8	10

#### 7. その他、の意見

- ① 受講学生が多すぎる。(3人の回答者)
- ① 学生の理屈が理解できない時がある。
- ① 学生の授業への積極性がみられない。
- ② クラスが大きすぎる-多人数。それと関連しているが学生が勉強してこない。
- ② 一般教育の理念の実現に適した、かつ、学生の興味関心にかなった講義内容の選択が不十分。

- ② 一つは自分が未熟であること、もう一つは文系・理系両方の学生が同時に受講すること。
- ③ 学生がなかなか乗ってこない（方法が悪いだけとは思われない）。
- ③ 多人数授業である。
- ③ 5の回答の注記。演習科目はモチベーションが大切。

## 問4 学生について

Q16 最近（ここ数年）の学生の勉学意欲や態度が変わったという意見を聞きますが、授業中の彼らを見てどう思われますか。

1. 良くなった。                      2. 悪くなった。  
3. 変わらない。                      4. わからない。

	1	2	3	4
①非常勤講師	1	8	10	7
②教育・専門	0	8	6	4
③一般教育	0	10	9	5
合計	1	26	25	16

Q17 学生の現状を考えて、授業や学生指導で特に気をつけていることがありましたら3つまでお答えください。

1. 何らかの方法で出席を確認する。
2. プリントをよく配る。
3. レポートを何度か課す。
4. 学生の到達度をチェックしている。
5. 学生の質問に答える工夫をする。
6. 個人指導を心がける。
7. 授業態度について何度も注意する。
8. 関心を教員に引きつけるよう話術を磨く。
9. 机間巡視をする。
10. その他（                      ）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
①非常勤講師	18	7	6	5	3	2	4	6	2	4
②教育・専門	10	8	4	2	2	0	1	3	2	3
③一般教育	14	8	9	5	10	5	2	4	0	1
合計	42	23	19	12	15	7	7	13	4	8

10. その他, の意見

- ① できるだけ分かりやすく講義することに努める。学生の問題関心にふれて行くように努める。
- ① 授業の開始時によく説明する。
- ① レポートを必須とする。
- ① 特別変わったことはない。
- ② 授業中の質問に対する答えを評価の上で重視することを強調している。
- ② 学生自身のこと・考えをアンケート調査形式で問いこれを教材化する。
- ② 保健体育概論で毎回授業後のレポートを課す。次の時間学生の解釈の間違い, おもしろい発想, 不良レポートを発表する。毎回 300 近くのレポートを読むので, それだけで 4 時間近くとられる。しかし授業のモラルは向上する。
- ③ 視聴覚教材を使う。

Q18 一般教育を受けている学生についてお聞きます。彼らの学習態度に関して, 現行の授業以外に何らかの措置を一般教育の段階でとる必要がありますか。

1. ある            2. ない            3. わからない

	1	2	3
①非常勤講師	14	3	9
②教育・専門	8	5	3
③一般教育	15	7	2
合計	37	15	14

Q19 もしあるとお答えになられました方は、次の方策にお考えと近いものがあるでしょうか。あれば2つまでお答えください。

1. 新入生オリエンテーションの改善充実
2. 「大学で何を学ぶか」とか「学問とは」という大学オリエンテーションの意味をもつ第一学年プログラムの開始。
3. クラス担任制の導入
4. 学生へのカリキュラム等の履修指導
5. 落ちこぼれ学生のための補正教育
6. 実技や実習を重視した授業形態
7. 合宿授業など学生・教員間の人格的なふれあいを重視した授業
8. その他( )

	1	2	3	4	5	6	7	8
①非常勤	3	7	5	2	0	2	3	3
②教育・専門	0	2	1	1	0	2	3	5
③一般教育	1	6	4	3	1	7	6	0
合計	4	15	10	6	1	11	12	8

8. その他、の意見

- ① クラスの人数を少なくする。
- ① 一般教育カリキュラムの再検討
- ① カリキュラムを改善する必要があるのではないか。
- ② ないが(Q18で2を選択)。一年向け前期に教育(学部)全ての教官が自分の専門・担当の入門ゼミ(20名)を開いたらよいかもしいない。
- ② 少人数でゼミ形式の授業を多数開講する。
- ② 「くじ引き」の廃止
- ② 出欠のチェック体制改善の上で、授業内容の工夫改善に努める。
- ② マスプロ授業をなくす。単位修得方法(事務的なものも含め)を改善する。現在の方法は、履修届さえ沢山だせば良いという学生の対応になっている。また何回も履修が可能であるので、イージーになる。

問5 今後の大学教育の中で専門教育と一般教育の関係についてどうお考えで

すか。

Q20 今後、一般教育がどのような教育課程になればいいとお考えですか。最も近いものを1つお答えください。

1. 一般教育は高度な専門性を追求する専門科目が理解できるようにするための基礎科目となる。
2. 一般教育は専門教育を受けるために必要な能力を養成する準備的な専門教育となる。
3. 専門教育と一般教育はまったく別の目的が設定され、別の教育課程になる。
4. 専門教育と一般教育が有機的関連をもちながらも、別の教育目標を掲げる教育課程となる。
5. 一般教育は専門教育の教育課程にとけこみ、一般教育的要素を含む専門教育課程となる。
6. 一般教育を行う意義が薄れ、一般教育はなくなる。
7. その他 ( )

	1	2	3	4	5	6	7
①非常勤講師	4	2	1	15	4	2	1
②教育・専門	0	1	0	13	0	0	4
③一般教育	0	0	1	17	4	0	2
合計	4	3	2	45	8	2	7

7. その他、の意見

- ① 4に近いのですが、「有機的関連」，「別の（教育目標）」は狭く、プラグマチックに固定化せず考える必要があるのではないのでしょうか。
- ② 一般教育に学生を引きつけるのには、専門教育に今よりもっと関連づける必要がある。選択肢は4と5の間。
- ② 既存の専門分野に束縛されないよう、総合科学・学際領域的科目コースとして充実させる。
- ② 完全にはなくならないが、かなり縮少し、専門以外に必要な知識を教えるようになる。

- ② 設問が良く分からない。一般教育をどのように定義するのか、一般教育を具体的にどのようなものとするのかということが先にあるのではないか？そのために、実際にどうしたら良いかという方法が考えられるであろう。
- ③ 一般という名称をなくすのだから、専門科目（人生に資する教養）。
- ③ 一般教育の科目数を合理化整理して最も必要なものだけを残してもう1年次からモザイク的に相当数の専門科目をぶっつける方向へ改善することへ向かうべきだ。弾力的に合理化を押し進めるのがよい。また新しい一般教育科目として3年次または4年次に何か総合科目的なものが置かれても良いはずだ。
- ③ 4の解答の注記。（ただし1にも4の観点を基本として対応することが必要であろう。）
- ③ 4の解答の注記。専門科目の視野の狭さを一般教育をカバーするしかないのでは。

- Q12 今後の一般教育のカリキュラムの改革の方途についてのお考えをお聞きます。お考えに近いものの番号を3つまでお答えください。
1. 複数の授業群をあるテーマにそって配列し全体として一つのまとまった知識の体系の修得をめざすコアカリキュラムの構築が望ましい改革の方向である。
  2. 総合科目に力を入れるべきだ。
  3. 演習科目などを重視する方向に進むべきだ。
  4. 一般教育の総単位数を引き下げる方向で見直すべきだ。
  5. 三系列各12単位総計36単位という現行のあり方を改め、興味・関心に合わせて一般教育科目について学生の履修の自由を認めるべきだ。
  6. 語学に関しても学生の興味・関心・能力にあわせていろいろの形の単位修得を考えるべきだ。
  7. 保健体育の授業もいろいろの教育目標・方法を取り入れた授業形態を考えるべきだ。

8. 多人数授業を廃止するなど、クラス規模をもっと考慮すべきだ。

9. その他( )

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
①非常勤講師	10	6	7	2	9	10	3	15	0
②教育・専門	4	0	7	4	8	11	2	9	3
③一般教育	16	4	9	5	7	10	4	15	1
合計	40	10	23	11	24	31	9	39	4

9. その他、の意見

② 学生に希望とか履修の自由を重んずるといのは理念としては反対しようもないが、どんな次元での「希望」「自由」かを充分見通した上でないと改革は決して実を結ばないであろう。

② 従来的一般教育・専門教育を越えた自由な選択を許す単位の枠を設けるべきである。

② 一つに授業の中でもっとの密度の高いことをし、その単位数を多くしたらい。

② 5についての意見。5の点は若干弾力化が必要でしょう。

③ 1よりもさらにゆるい型の履修指導などである程度の有機的関連を持つ履修を可能にする。その場合5の観点もある程度取り入れる。余りきつくしすぎるとソ連型社会主義のように行き詰まってしまう可能性が大きい。

③ 6の回答の注記。英語は1年次からテーマ別クラスのようなものにする。

問6 今回のアンケートについての自由記載

Q22 今回のアンケートでとりあげました一般教育の授業に関してお考えのことがございましたらご自由にお書きください。

①非常勤講師

○学生のための一般教育の意義、及び教官にとっての一般教育の意義の双方が

平行して検討されねばならないとおもう。また日常生活の現実と学問探求とのあいだの隔たりを埋めていくのが、一般教育の一つの役割かもしれないとも考えている。(少し大げさですが)

○従来の教官中心の一方通行の授業の方法に大きな変革を。教育が変わらなければ創造性は育たない。教官の意識改革を。

○一般教育は少年期から成人期へ移る過程として人間性の発達深化をめざす大切な教育であると思う。従って、学校・社会・教員がその重要性を認識し、意欲を持ってこれにあたるべきだと考える。これは、学習塾、予備校体制に基づく〇×主義的傾向とは反対の方向であって、これが実現されなければ、大学教育は危機に陥ると思われる。

○一般教育といえば広く浅くという考えになりがちだが、広く学ぶということは深く学ぶということだと思われる。大学教育が専門バカを養成しないよう、一般教育も深く掘り下げて各分野がどこかでつながっているようなコアカリキュラムの構築が望まれる。学問のよるこびはそこに生まれはしないが、それは“哲学”の問題かも知れない。哲学を必須にするのがよいのかも知れぬ。一外国語を教えているものだが、“言語学”を必須とするのがよいとする見解もこのことと関係しよう。

○自分が学んでいる科目が自分にどう役立つのかははっきり分からない学生が多い。各教科の先生は①自分の教科と他の教科との関連、それと学生の努力が、②将来彼らにどういうメリットをもたらすか、③社会生活へどう関わるか、e t c.を常に説き、大学を「受験戦争後の休息の場」と思っている学生達をうんと励まし、動機付けするべきだと思う。

○授業時間にとらわれず、課題を与えて、学生が自主学習をし、四年間の間にある単位をとることができるようにする方法。(例えば語学は自分でしなければならない部分が多いので。)

○語学の授業で60名以上というのは多すぎます。何とか最低40名くらいにしていれば少しは効果が上がるのではないかと思います。

○語学クラスについて言えば、現行の1クラス70余名を1クラス35名くらいにすること。そうすれば学生と教師のコミュニケーションも円滑になり、授業方

法にもいろいろな工夫が可能となる。

○なんと言っても専門科目に準ずるクラス人数を考えるべきである。1クラス50名以下。

○体育実技を担当していて、場所、用具等は充分であるが、学生の更衣室については狭あいで、設備も不十分。また不特定に近い使用者のため、部外者との区別もつきにくく盗難等の防止対策に困っている。保健管理上の検討のようあり、(特に女子学生の増加にともなう対策が考えられて良いのでは。)

○(問4およびQ18に関して)一般教育の衰退は学生の側に問題があることを否定はしませんが、より大きく、教官側に問題がないでしょうか。教官が授業を特に一般教育の授業を余分な負担と考えている限り、一般教育は崩壊し、大学(教育とってよいかも知れませんが)は中教審・文部省に屈服することになってしまうでしょう。①その対策として学内に一般教育に対するコンセンサスを作りあげること。②に一般教育担当者の問題解決が必要でないでしょうか。①については外国語力をつけることは専門学部外書講読などでやっていただくとして、一般教育としては外国語文化圏の食文化、論理を中心とする人文分野に移し(専門基礎を含め専門分野の)、保健体育は実技をやめて、公衆衛生、健康問題として、社会へ移す、など整理した上で、学内では老練の方を中心に、学外からも人材を求めて、大学の教育に熱意を持っておられる方で、編成することも一つの方策ではないでしょうか。②については具体的なやり方として、このアンケートの結果を各専門教官にお知らせした上で、一般教育外の教官の意見を伺うことから始めては如何ですか。

#### 教育学部・専門

○一般教育の改革は、学生の興味、関心に即した講義内容、教授方法の改善に徹すべきである。

○一般教育とは何かを考える以前に大学教育と何かを考えるべきである。学生の講義内容に対する関心の薄さや学力のレベルを知らなければ教官が教育の理想論を議論しても単に時間と労力の無駄に終わり。最後に学生に対する不満が残るだけであろう。

○学習者の視点から、大学教育、一般教育のあり方を探る視点が不十分であると感じています。この点からも検討いただければ幸いです。

○学生の立場で考えると、カリキュラムが過密している。そして内容については語学はもっと学生を引きつける授業をすべきといったことがあげられよう。事実私もそう思っている。一方、一般教育の理念と学生の理解、ニーズとが大きく食い違っているようにも思う。そういった意味において「大学設置基準の大綱化」「大学評価システムの確立」は身につまされる感がある。まさに今こそ、大学、教官、学生相互のタイアップを考慮すべきである。

○設問がよく分からない所が多い。一般教育がどのようなものが望ましいかといっても百家争鳴になるのではないか。具体的な教育目標をもっと掲げて、そのためにどうしたら良いかという風に考えねば、結局は循環論のみとなるのではないか？例えば「読み書きそろばん」というのは具体的な目標になる。「書く」or「表現する」とか「理解する」とか言う目標を掲げて、そのためにどのような方策をとるべきなのかという程度でよいのではないかと思う。このような基礎的トレーニングが現在の学生には不足しているのだと思います。

○各系列の会議を開いたらどうか、各教官がそれぞれの考えに基づいて講義を行うことはもちろん前提としての話ですが、とくに新しく来られた方のためにも、ある程度のガイドラインを合意の上で、作り上げていく必要があるし、その雰囲気づくりも必要です。

○専門教育についてもいえることであるが、学生にとって授業時間数が多すぎる。もっと少なくして、学生個人が自らの興味や関心に忠実になり、研究を進めることができるような方法を考える必要がある。現状は高校と全く変わるところがない。一般教育においても、専門と関係のない研究する（自ら求めて）ことができるような指導体制をとる必要があると思われる。

○文系・理系を分け、それぞれの実状にあったカリキュラムにすべきである。

○一般教育担当教官の専門的要求水準が高すぎるのではないか。語学は文学になりがちで、哲学倫理学は難解。もっと論理的にものごとを明らかにする楽しさを伝授できないものか。分かりやすくして知的におもしろい授業がめざされるべきなのでは？

## 一般教育

○専門科目に対するスタンスをどうとるかがカギ。

○一般教育の充実と向上には、専門教育との有機的関連が必要不可欠であると思われる。

○一般教育の改革が論議され、それが法制化されることは認めるが、一般教育の改革とはとりもなおさず専門教育の在り方そのものが問われていることを忘れてはならない。例えば、「カリキュラムの自由化」を図る専門教育とは何かをあわせて論議しない「大綱化」「カリキュラムの自由化」にはすんなり同調できない。

○大学評価と結びつけ、さらには自己評価に立ち入ることが今後肝要ではなからうか。具体的に一人一人の教官がどのような講義演習等をしているのか、その共有化なしにカリキュラムの体系化、組織化は存在しない。従って、以上のことを達成するためのシラバスづくりは早急に始めるべきであろう。

○一般教育に限らず、①大学の個々の授業が密室的である。②そのためもあって、複数の授業を有機的に結合させ、カリキュラム目標を達成することがほとんどできない。思い切って、授業間の垣根を低くすることが改善への前提であろう。

○現行のカリキュラムでは一般教育の制度的な制約が大きい。もっと学生が自分の希望に合わせられるよう制度を緩くし、学生の自主的選択の幅を広げる方向での改革が望ましい。

○多人数教育の打破と、本人の将来学ぶ専門以外の科目をどのように位置づけるかが、今後の一般教育のカギであろう。単位で縛ることだけではなく、学生の自由意志の上になり立つ、専門基礎以外の教育体系をどう構築するか、そこに教官対学生のコミュニケーションをどう貫徹させるか（教育効果）をこれまでの体系から離れて検討する必要がある。

○①学生は大学で学ぶ目標を見失い、教師は学生に教育する意欲を喪失し教育活動それ自身に無関心・無感動になっているのではないだろうか。②このことは、今や一般教育のみならず、専門教育についても指摘できるように思われる。

③大学教師は、大学の存在理由を根元的に問い直す中で、大学教育の指導原理

を見だし、そのうえで大学の大衆化に対処しての「大学教育の現代化」を推進する必要がある。

○クサビ型カリキュラムが理想といいながら、現実とはほとんどが1年半で終わっているが、実質的なクサビ型が機能するような配慮が必要であろう。

○一般教育についても1年次に行うより広い範囲にテーマをおくものと、関連科目（便宜的に名付ける）という形で3，4年次に1，2年次の選択よりももう少し自由に自分の関心や専門分野に近いものを基礎力を持って臨めるという風に二段階にするのも一つの方法だと思う。

○別になし。一般教育の改善に役立つような結果を期待します。

### 3. アンケートの集計結果に関するコメント

Q2では一般教育を担当し始めてからの経験年数を聞いた。一般教育担当教員（一般教育教官会議メンバーを以下こう呼ぶ）では経験年数が均等に分散しているのに対して、非常勤講師・教育学部専門教員（教育学部教員で、一般教育教官会議非メンバーを以下こう呼ぶ）では0－5年の経験年数の回答者が最も多い。後出するいくつかの項目によると、一般教育を担当し始めた経験の浅い教員を対象に、一般教育の授業に対する教員研修を希望する意見が出てくる。もしそのような会を開くなら、非常勤講師や教育学部の専門の教員に対しても呼びかける必要があると思う。

Q3では教員自身が自分の受けた一般教育に対して、どのような印象を持っているのかをたずねた。教科に関しては回答者の答えがまちまちであった。どういう点が印象的だったのかということに関しては、次のような点があげられる。①授業の進め方について、②授業で取り上げる内容に関して、③受講後にうけた実利的な影響のこと、④教員の授業（自分の学問）に対する態度、⑤その他の印象、に分けられるのではないだろうか。③以降は教員や学生の考え方や個性に基づく言明である。それに対して、①と②は一般教育での授業改革に参考になる点がある。クラスのサイズによって、授業の効果が違っていたとする意見が複数あったことは注目してよい。

Q4では「一般教育」についてその定義を明らかにしないまま聞いた。一般

教育はいくつかの理念に基づいておこなわれ、簡明な形で定義を明示できなかったためである。香川大学では確立した一般教育カリキュラムシステムが存在しており、それに従って授業が運営されているため、「一般教育の理念」という根本的な問題を議論する機会がなかった。1970年代に「一般教育の理念」に関する議論を重ねた結果「リベラルアーツ」概念に基づき一般教育体制を確立した世代に続く、次の世代にとって一般教育の理念がどうとらえられたのかを今回の調査でたずねたかった。「一般教育の理念」の定義を明示しえない以上、回答者にとって、「自分の一般教育の理念」があるかどうか聞くこととなった。回答では2のよくわかったとは言えないが、大体のアウトラインは承知しているという回答が多かった。逆にみると、一般教育の理念に対して一応の理解は持っているが、それが完全でないことを自覚している状況であるという評価もできる。大学教育改革を考えるこの時期に、さらに議論を重ねる必要があると考えられる。その他の意見で、一般教育の理念が簡単な理念でないことを指摘するものがあった。

Q5ではさらに一般教育の理念が授業の場に反映されているかどうか、自分でどう評価しているのかをたずねた。その結果、回答は分散しているが、3のわからないと答えた回答者が多く、ついで2のうまくいっていないであった。どういう点がうまくいっていないと感じているのか、このアンケートではそこまでは分からないが、今後の研究の過程で明らかにし、解決可能ならこれから共に解決していきたいと考える。さらに回答者の中で、教育学部専門の教員に1うまくいっていると答えた人が少なく、かつ2うまくいっていないと答えた比率が比較的多い。その理由に経験年数が浅い人が多いという点があるかも知れないが、さらに考えるなら、同じ学部にいるために当然コミュニケーションがさかんにあり、一般教育についての理解ができているとの思いこみが一般教育教育会議の側にあるのではないだろうか。一般教育に関して討議や情報の伝達など、同じテーブルで議論を行う機会が少ないために一般教育についての理解が少ないのではないのだろうかとも考える。さらにその他にあげられた意見をどう評価すればいいのか困惑する。一般教育の理念に関して一般教育教育会議として議論し、共通概念を構築しておくことを痛感する。

さらに一般教育の授業をおこなう意義を教員自身はどう評価しているのだろうかということをもQ6でたずねた。選択肢の1と3の答が多い。2の一般教育は専門教育をおこなうための基礎教育であるとの意見は少なかった。同じ項目を回答とし、一般教育の意義をたずねる調査が13年前に行われた(国立大学一般教育担当部局協議会、一般教育責任体制調査検討特別委員会)。その時の結果を比率で示すと、1(53%)、2(7%)、3(14%)、4(23%)、5(2%)、6(2%)、7のその他では特に意義はないと答えたものであったと報告している。今回の調査の結果を同様に示すと、1(36.4%)、2(11.9%)、3(25.4%)、4(20.3%)、5(3.3%)、6(0.8%)、7(1.7%)であった。結果に大きな変化はないが、今回の調査では、3において増加し、1で減少している。1は一般教育を本質的・総合的な視点から見ようとする態度であるのに対し、3では課題に対する思考力や判断力を養う実践的教養を重視する姿勢を示している(国立大学一般教育担当部局協議会 一般教育責任体制調査検討特別委員会P64)。

Q7では回答者の授業の分野を開いた(図1)。回答のあった授業の総数をそれを行う教員を非常勤・教育専門・教育一般の3区分に従って示した。

図2ではクラスの人数と授業の形態との関係を示した。講義と総合科目でクラス人数のばらつきが大きいものの、他の授業形態ではかなり同様のクラス規模になってくる。演習の50-100人規模の授業は語学の授業で、この数字が他を圧して高くなっている。

図3はクラス規模と学生が単位を与えられる合格率との関係を見ようとしたものである。少人数ほど合格率は100%に近くなる。クラスの人数が多くなればなるほど合格率が下がると一概に言えない部分があるように思われるが、概して少人数ほど授業での合格率が高く授業の効率がいいようである。

Q11では一般教育の授業にどんな配慮をしているかをたずねた。1授業の内容に対して配慮する、3学生の興味関心を引き出す、2教授方法に対して配慮する、というのが主要な3つの多数意見である。専門科目に比して、一般教育の授業ではどう教えるべきかという問題は一つの方角に定まったというよりも教員個人のレベルで全て解決がなされているという状況である。例えば一般教

育教官会議などがリードする形で、一般教育の授業はどうあるべきかという基本にかえった議論がさかんになされるならば、各人の中で一般教育はどういう状況の人に何をどういう形で教える教育活動なのか、そして私たちはどのような授業をすればいいのかという確固とした考えが形成されるのではないかと。3と4の学生の関心や現状に配慮する回答では一般教育担当教員に配慮しようという姿勢がある。非常勤教員や教育専門教員には配慮する教員も存在するが、少数になっている。このことは学生の状況に関心が薄いと考えるよりも、一般教育に責任を持つ一般教育担当教員が当然関心を払うべきであり、そこでえた情報や考えを積極的に前二者に伝達する必要があると考える。

では具体的に教員が授業がやりやすいと考えているのかどうかをQ12でたずねた。やり易いと感じている人が意外に少ないことに注意しておく必要がある。やり易いところとやりにくいところの両面を印象としている人が最も多い。同じく授業を担当している者の実感として、この意見には納得できる。授業においてやりにくいと感じる部分を明らかにし、その原因が究明でき、一般教育部として解決できるものなら解決していきたい。またやりにくいと答えた人に一般教育部が組織として、何らかの解決の手助けができればいいかと考える。

Q13ではやり易いのはどういう点かをたずねた。3 授業が教員にとって新鮮なテーマを扱っていることと、1年生の授業への積極的参加、4 自分の得意分野であるからと答える回答が多かった。同時にアンケートへの無回答が多く、授業がやり易いということはかなり個々の授業をおこなう教員にとって、バラエティーがあって個人的な考えに従うことが多く、一般的な見解を求めることが困難であると感じた。

逆にやりにくさの原因をたずねたQ14では学生と教員の両方に原因があると答えた回答が多かった。日頃学生の受講態度に対して意見を聞くことが多いので、学生にやりにくさの原因を求める答が多いと予想していたが、意外であった。ここでもその他の意見にクラスの人数の多さをあげる意見があった。

では教員の側にあるやりにくさとはどんな点であろうか。Q15によると、2の自分がまだ未熟だからの理由をあげる人が一番多かった。このことは以前の香川大学一般教育研究31号 Faculty Development 特集でも述べられてお

り、新任教員を対象にした教員研修会を持つ必要があるといえる。先輩教員からの一般教員並びに授業に対しての適切なガイダンスがあれば、この原因の幾分かは解消するのではないだろうか。さらに回答の4自分の授業で一般教育の理念を実現する方法が見いだせていないと答えた人も多い。筆者は先輩教員の「一般教育の教育目標はリベラルアーツである。人が生きていく教養を身につけるために開かれる授業だ。」の一言で、一般教育の授業で何を教えるべきか悩んでいた折りに、目の前が開けた思いをした経験があるだけに、教員研修会を制度的にもうけ、定期的を開かれることはこの2つの悩みは解消に向かうのではないかと考える。そして3一般教育のカリキュラムなど諸制度にもやりにくさの原因を感じる人がいる。この点は具体的に述べてもらって、解決できるものは解決していく制度をもうけたい。定期的に不満を吸いあげるアンケートのような制度を導入したらどうか。FDの議論でも問題になったが、学生からも授業への意見や評価を積極的に聞いたらいいと考える。ここでもその他の意見で、クラスの人数の多さをあげる人がいる。このことについても一般教育部は見解を表明する時期にきているのではないだろうか。

Q16以下では学生に対しての意見を聞いた。学生の態度や勉学意欲は以前より同じか、悪くなったと答える意見が多かった。このことに対しては分析的な研究を進める必要があると考える。

こういう変化をおこしつつあると認識する学生に対して、授業で接するためにとっている方策についてQ17で聞いた。出席の確認をするという回答が多かった。プリントを配ったり、レポートを課したり、学生の質問へ答えるなどの工夫をしながら、学生を授業に引き込もうとしている努力を重ねている。こういう個々人の授業に対する努力を開示しあい、香川大学一般教育部全体の財産にするような研究会を積み重ね、大学での授業研究も必要なのではないかと考える。

Q18では56.1%の回答が一般教育部が授業以外で何らかの措置をとる必要があると回答している。その方策について聞いたQ19によると、回答者の見解はかなり分散しているが、2第一学年プログラムの導入、7学生・教員の人的つながりを目的とする授業、6実技や実習等を重視する一般教育の授業、3ク

ラス担任制の導入などの意見に分散する。その他ではクラスの人数を少なくするということ、少人数のゼミ形式の授業を開講したらいいという意見もある。このうちのいくつかの実施を検討する時期にきているのではあるまいか。

Q20今後の一般教育の課程がどのような姿になると考えるかという質問に対して、圧倒的多数の回答者が、4の専門教育と一般教育が有機的関連をもちながらも、別の教育目標を掲げる教育課程になることを選んでいる。有機的関連、別の教育目標という用語はその内容を具体的に示すとすると難しい点を多く含むが、この言明をできるだけ具体的に実行可能教育方針とするべく我々は努力をすべきである。

Q21ではカリキュラムの具体的改革の方途を聞いた。回答者の40%以上が改革の方向としてあげた項目を見ると、1コアカリキュラムの導入、8クラス規模の検討、6語学の多種の履修形態である。かなり議論の次元の違う問題をあげているが、このうちどれが香川大学に導入可能かという議論をする時期にきているのではないか。

さらに自由記載のQ22に多くの意見が寄せられた。一般教育の改革の視点に関するものや、専門教育との連関に関してなどいくつかの傾聴すべき意見が述べられている。

#### 4 おわりに

集計されたアンケートの結果から次の提案をおこないたい。①一般教育とは何を教育得る教育課程なのかという「一般教育の理念」をぜひ議論してもらいたい。その過程で一般教育のかかえる問題も浮き上がるし、そこから理念に裏打ちされた香川大学での教育目標も確立できると考える。②経験の浅い教員のために一般教育の授業はどうすればいいのかという教員研修会を開いたらどうであろうか。また大学の授業研究も、研究の中に含めたい。大学で教員がどんな授業をするのかについての研究をおこなう体制は保持したいと考える。その際一般教育教官会議以外の教員にも参加を呼びかけてもらいたい。③カリキュラムの面でも改革の試行を含めた実施を検討すべきである。他大学でもいくつかのカリキュラム改革が行われている。それを研究し香川大学のカリキュラム

改革を提示してもらいたい。④クラスの人数に関しても何らかの検討が必要であろう。⑤学生の立場に立った一般教育の検討をすべきである。学生も改革のテーブルにつけるよう配慮する必要があると考える。

このアンケート作成については1990年度の一般教育研究室運営委員と1991年度の大学教育研究室運営委員に質問項目を何度も検討していただきました。ここに先生方のお名前をあげて、感謝いたします。1990年度木原主事、丹羽、林、友沢、石川徹、稲田、1991年度木原主事、高尾、林、上杉、石川徹、稲田の各先生です。

#### 参考文献

国立大学一般教育担当部局協議会 一般教育責任体制調査検討特別委員会（1978）：

『国立大学一般教育責任体制に関する調査検討報告書 その3 一総括一』国立大学一般教育担当部局協議会 一般教育責任体制調査検討特別委員会，489ページ

『香川大学一般教育研究 第31号 Faculty Development 特別号』（1987），1

— 258p

## 〔参考資料〕

一般教育等科目の授業実態に関するアンケート調査

香川大学一般教育部大学教育研究室 1991.02.28

1990年7月大学審議会大学教育部会が公表した「審議の概要(その2)」は、基本的に変更のないまま、1991年2月8日に大学審議会答申として文部大臣に提出されました。その中で、大学教育の改善の中心課題として「大学設置基準の大綱化」と、「大学評価システムの確立」の二つを掲げていることは既にご存知のことと思います。そのうち前者については一般教育と専門教育の「授業科目の区分」を制度上廃止して、「大学教育カリキュラムの自由化」を図るとされています。

このような情勢のなかで、大学教育研究室は、大学における一般教育の現状に対する問題状況をつきとめ、今後どのように改善し発展させていけばよいのか、われわれ大学教員みずからの問題として究明していく必要があると考えています。そこでまず、一般教育等科目の授業を担当されている諸先生がたが常々抱えている問題点をアンケートの形で集約することから始めようと考えました。今後の香川大学の大学教育の改革に際しての基礎資料となることを願っております。なお、このアンケートは、1990年度後期に一般教育等の授業を担当されている先生がた全員にお願いするものです。

以上の主旨をご理解のうえ、以下のアンケートに対し教官各位のご協力をお願いします。

なお回答は別紙の回答覧に番号または文章でお答えください。その他という回答の場合は空欄に具体的にお書きください。

問1 あなたの一般教育についての経験をお伺いします。

Q1 次からお選びください。

- 1 非常勤講師である。
- 2 香川大学の法学部、経済学部、農学部、商業短期大学部の教員である。
- 3 香川大学教育学部教官で一般教育部教官会議のメンバーでない。
- 4 香川大学一般教育部教官会議のメンバーである。

Q2 あなたは一般教育の授業を担当するようになって、通算何年になりますか？

( )年

Q3 あなたが学生時代にうけた一般教育(教養課程)の授業に対して、どんな印象を持っていますか。一番印象に残っている授業名を回答覧にお書きください。また次の空欄にその授業のどんな点が印象に残っているかご自由にお書きください。

問2 一般教育の理念について

Q4 いわゆる「一般教育の理念」についてお聞きします。

- 1 よく理解し、承知していると思う。
- 2 よくわかったとは言えないが大体のアウトラインは知っていると言える。
- 3 ほとんど承知していない。
- 4 その他( )

Q5 一般教育の理念を授業に生かすことはうまくいっていますか。

- 1 うまくいっている。
- 2 うまくいっていない。
- 3 わからない。

Q6 あなたのお考えになる「一般教育の理念」によると、一般教育の授業を行う意義は次のどれに一番近いですか、もしあれば二つまでお答えください。

- 1 専門的研究教育体制にとらわれることなく、学問や人間社会に共通の基本的な認識判断を追求する。
- 2 専門教育の準備あるいは基礎を確実にする。
- 3 学問や人間社会の課題に対する思考法と判断力を養う。
- 4 人生や社会ないし文化に対する理解を深め、知見を広くする。
- 5 教員と学生、学生相互間の議論に基づき新しい知識を形成するという教養のあり方を学ぶ。
- 6 法令、学則に定める卒業資格を充足させる。
- 7 その他 ( )

問3 次に授業に対してお聞きします。Q7からQ10の質問には、担当されている授業ごとに欄を代えてお答えください。同じ内容の授業を繰り返している場合はどちらか一方のみについて答えてください。

Q7 授業は次の系列の中でどれに属しますか。

- 1 人文、2 社会、3 自然、4 外国語（英語）、5 初修外国語、6 保健体育、

Q8 授業の形態は次のどれですか。

- 1 講義、2 演習、3 実験、4 体育実技、5 総合科目、6 高学年一般科目、

Q9 クラスの人数は次のどれですか。

- 1 50人以下、2 50-100人、3 100-150人、4 150-200人、5 200-300人、6 300人以上

Q10 学生の学業達成割合。今年度後期の各授業で大体何%ぐらいの学生が合格になりますか。合格率を概数でお答えください。

Q11 一般教育の授業ということで、専門教育との対比において特に心がけていることがありますか。それはどういう事柄ですか次から2つまでお答えください。

- 1 テーマや内容の選択の仕方を工夫する。      2 授業の展開方法を工夫している。
- 3 学生の興味関心を引き出す方法について考えている。
- 4 授業の前提となる学生の知識の状況の把握と補充につとめている。
- 5 特に心がけていない。
- 6 その他 ( )

Q12 これらの授業はやり易いですかどうですか。

- 1 やり易い。
- 2 やりにくい。
- 3 両方の要素を含む。
- 4 その他 ( )

Q13 やり易いと感じるのはどういう点ですか、近いものをお答えください。

- 1 学生が積極的に授業に参加し協力的である。
- 2 授業の教育目的について教員と学生の間相互の理解ができています。
- 3 自分にとって、新鮮なテーマの授業で新しい発見があり、充実している。
- 4 自分がよく知っていることを授業で扱っており、困難に感じることは何もない。
- 5 その他 ( )

Q14 やりにくいと感じる原因はどこにあるとお考えですか。

- 1 原因は学生にある。
- 2 原因は教員(自分)の側にある。
- 3 学生・教員の両方に原因がある。
- 4 カリキュラムなど香川大学の一般教育制度に問題がある。
- 5 その他 ( )

Q15 やりにくいことの原因が教員の側にある、または両方と答えた場合、その理由がもしあれば次から2つまでお答えください。

- 1 授業で教授しなければならぬテーマが自分の興味・関心とかけはなれている。
- 2 自分の授業の技術が未熟なために、講義内容をうまく授業に展開できない。
- 3 授業間の関連性など一般教育全体のカリキュラムに起因する。
- 4 一般教育の理念を実現する具体的方法を見いだせていない。
- 5 教室の設備の不備。
- 6 忙しくて授業の準備が十分できない。
- 7 その他 ( )

問4 学生について

Q16 最近(ここ数年)の学生の勉学意欲や態度が変わったという意見を聞きますが、授業中の彼らを見てどう思われますか。

- 1 良くなった
- 2 悪くなった
- 3 変わらない
- 4 わからない

Q17 学生の現状を考えて、授業や学生指導で特に気をつけていることがありましたら3つまでお答えください。

- 1 何らかの方法で出席を確認する。
- 2 プリントをよく配る。
- 3 レポートを何度か課す。
- 4 学生の到達度をチェックしている。
- 5 学生の質問に答える工夫をする。
- 6 個人指導を心がける。
- 7 授業態度について何度も注意する。
- 8 関心を教員に引きつけるよう話術を磨く。
- 9 机間巡視をする。
- 10 その他 ( )

Q18 一般教育を受けている学生についてお聞きます。彼らの学習態度に関わって、現行の授業以外に何らかの措置を一般教育の段階でとる必要がありますか。

- 1 ある
- 2 ない
- 3 わからない

Q19 もしあるとお答えになられました方は、次の方策にお考えと近いものがあるでしょうか。あれば2つまでお答えください。

- 1 新入生オリエンテーションの改善充実。
- 2 「大学で何を学ぶか」とか「学問とは」という大学オリエンテーションの意味をも

つ第一学年プログラムの開始。

- 3 クラス担任制の導入。
- 4 学生へのカリキュラム等の履修指導。
- 5 落ちこぼれ学生のための補正教育。
- 6 実技や実習を重視した授業形態。
- 7 合宿授業など学生・教員間の人格的なふれあいを重視した授業。
- 8 その他 ( )

問5 今後の大学教育の中で専門教育と一般教育の関係についてどうお考えですか。

Q20 今後、一般教育がどのような教育課程になればいいとお考えですか。最も近いものを1つお答えください。

- 1 一般教育は高度な専門性を追求する専門科目が理解できるようにするための基礎科目となる。
- 2 一般教育は専門教育を受けるために必要な能力を養成する準備的な予備教育となる。
- 3 専門教育と一般教育はまったく別の目的が設定され、別の教育課程になる。
- 4 専門教育と一般教育が有機的関連をもちながらも、別の教育目標を掲げる教育課程となる。
- 5 一般教育は専門教育の教育課程にとけこみ、一般教育的要素を含む専門教育課程となる。
- 6 一般教育を行う意義が薄れ、一般教育はなくなる。
- 7 その他 ( )

Q21 今後の一般教育のカリキュラムの改革の方途についてのお考えをお聞きます。お考えに近いものの番号を3つまでお答えください。

- 1 複数の授業群をあるテーマにそって配列し全体として一つのまとまった知識の体系の修得をめざすコアカリキュラムの構築が望ましい改革の方向である。
- 2 総合科目に力を入れるべきだ。
- 3 演習科目などを重視する方向に進むべきだ。
- 4 一般教育の総単位数を引き下げる方向で見直すべきだ。
- 5 三系列各12単位総計36単位という現行のやり方を改め、興味・関心に合わせ一般教育科目について学生の履修の自由を認めるべきだ。
- 6 語学に関しても学生の興味・関心・能力にあわせていろいろの形の単位修得を考えるべきだ。
- 7 保健体育の授業もいろいろの教育目標・方法を取り入れた授業形態を考えるべきだ。
- 8 大人数授業を廃止するなど、クラス規模をもっと考慮すべきだ。
- 9 その他 ( )

問6 今回のアンケートについての自由記載

Q22 今回のアンケートでとりあげました一般教育の授業に関してお考えのことがございましたらご自由にお書きください。

\*どうもありがとうございました。おそれいりますが3月23日(土)までに一般教育事務室に備え付けたボックスまでご提出ください。なお、ご不明の場合は稲田(香大61-4141内361)までお問い合わせください。

一般教育等科目の授業実態に関するアンケート調査回答用紙  
香川大学一般教育部大学教育研究室 1981.02.23

問 1

Q 1	Q 2	Q 3	印象
Q 6			

問 3

	Q 7	Q 8	Q 9	Q 10
授業1				
授業2				
授業3				
授業4				
授業5				
授業6				

Q 11	Q 12
------	------

Q 13
------

Q 14	Q 15
------	------

問 4

Q 16	Q 17
------	------

Q 18	Q 19
------	------

問 5

Q 20
------

Q 21
------

問 6

Q22
-----

\*どうもありがとうございました。おそれいりませんが3月23日(土)までに一般教育事務室に備え付けたボックスまでご提出ください。